

ボランティア等の 育成と活動支援

- ① 児童館を利用する子どもが、ボランティアリーダーとして仲間と積極的に関わる中で組織的に活動し、児童館や地域社会で自発的に活動できるように支援すること。
- ② 児童館を利用する子どもが、ボランティアとして適宜、活動できるように育成・援助し、成人になっても児童館とのつながりが継続できるようにすること。
- ③ 地域住民が、ボランティア等として児童館の活動に参加できる機会を提供し、地域社会でも自発的に活動ができるように支援すること。
- ④ 中・高校生世代、大学生等を対象としたボランティアの育成や職場体験、施設実習の受け入れなどに努めること。

遊びによる
子どもの育成子どもの
居場所の提供子どもが意見を
述べる場の提供配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

地域の健全育成の
環境づくりボランティア等の
育成と活動支援放課後児童クラブの
実施と連携

子どもヘルパー

■ 児童館の概要

名 称	神戸市立長尾児童館
設 置 主 体	神戸市
運 営 主 体	社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会
開 設 年 月	平成8（1996）年1月
開 館 時 間	月～土9：30-17：00 ※小・中・高生いずれも17：00まで ※「子育てコミュニティ」として地域主体での開館あり 休館日：日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）
所 在 地	兵庫県神戸市北区長男町宅原130
ホームページ等	http://www.eonet.ne.jp/~nagao-jidokan/
児 童 館 種 別	小型児童館
占 有 面 積	土地531.97㎡ 建物257㎡
職 員 数	常勤2人、非常勤2人
年間利用者数	約8,182人
自治体の人口	神戸市/1,530,804人（内、北区/215,679人） （令和2（2020）年2月末現在）
主な利用児童の 学 校 数	小学校1校、中学校1校



活動事例

活動の前提にあるもの

長尾児童館は農村地域にあり、人口の多い新興住宅地からは1.6km離れています。そのため、子どもたちが徒歩で通うことは難しく、交通手段は自転車か自家用車しかありません。そこで、1人でも来館できる小学校高学年の児童に向けて、児童館に通いたくなる仕掛けとして立ち上げました。また、長尾小学校は全学年が6クラスという大きな小学校であることから、学校では活躍の機会を得られない子どもが多く、学校側としても地域に子どもの活躍の場を求めていました。さらに地域でも、高齢者層が増え活気がなくなることが懸念していたことから、子どもが集まる活動に大いに賛同していただきました。

活動の概要

- 「子どもヘルパー」は、小学校高学年の子どもたちが、地域の行事や児童館の活動にボランティアとして参加する取組です。
- 5月に募集し、6月から3月まで、毎月2～4回の活動を児童館の内外で行っています。内容は、児童館に通う乳幼児親子との交流や高齢者とのマッサージを通じた交流、消防団の協力による消防訓練、中学校の吹奏楽部とのクリスマスコンサート、自治会の老人クラブなどの指導によるしめ縄づくりなど、多岐にわたります。
- 人の役に立つ喜びを体験しながら思いやりの心を学んだり、地域の伝承行事を引き継いだりする中で、地域共生ケアの精神を育むことをねらいとしています。
- 本事業は、年間20以上のプログラムがありますが、いずれも活動の前後にしっかりと遊ぶ時間を設けることを大切にしています。

遊びによる
子どもの育成子どもの
居場所の提供子どもが意見を
述べる場の提供配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

地域の健全育成の
環境づくりボランティア等の
育成と活動支援放課後児童クラブの
実施と連携



活動のポイント

ボランティア等の育成と活動支援

活動の前後に遊びの時間を設ける

本事業は児童館の利用を促すことが目的の一つであるため、ボランティアをしなければ児童館に来てはいけなく思われぬように注意しています。そこで、子どもヘルパーの活動日であっても、子どもたちにはまずしっかり遊んでもらいます。そして、ボランティアを押し付けるのではなく、遊びを通じた活動がいつの間にか人の役に立っていたと気づくような流れを作ることができるよう、常に意識しています。例えば、ボランティアの一環として、児童館で新しく購入した遊具を「お試し」として最初に遊んでもらい、後日、他の子どもに遊び方を教える役割を任せています。子どもにとって新しい遊具を一番に触るのはうれしいようで、この活動は大変好評です。

学校・地域との密接な連携

児童館周辺の地域は高齢者が多いことから、もともと住民から地域の活性化を求める声が上がっていました。また小学校でも、地域で子どもが活躍できる活動を求めていたことから、地域や小学校から惜しめない協力を得ることができました。小学校では高学年全員に募集チラシを配布させていただき、児童館の大きな行事には、校長をはじめ先生方が必ずいらっしゃいます。地域では夏祭りや餅つき、とんど（小正月の火祭り）などの行事のお手伝い、デイサービスセンターでの交流、農業体験など、さまざまな活動に声をかけていただいています。

子どもたちの自主性を尊重する

子どもは、どうしても「指示待ち」になりがちです。しかし、児童館は自発的な活動を支援する場であることから、自主性を育てることに注力しています。そこで、プログラムの初回にどのような活動がしたいかを付箋に書いてもらい、できる限り実現するようにしています。これにより活動に一層前向きになり、指示を待たずに自らアイデアを出す、行動するといった効果があります。年度末の最後の活動日にも、次年度どのような活動がしたいかを付箋に書いてもらい、反映できるように心がけています。

講習会や報告会を開催する

必要に応じて各プログラムの前に学習会や講習会を設けています。例えば、異世代交流会で、子どもが高齢者などに行うマッサージでは、専門家から3日間の講習を受け、「免許皆伝」と認められた上で実施するようにしています。また、募金活動をする前は、共同募金委員会に依頼し「なぜ募金をするのか」について学習会を行っています。しっかりと学びの時間を持つことで、活動の意義や効果を意識しながら取り組むことができます。また、年度末の報告会では、活動にご協力いただいた関係者や保護者を招待し、子どもたちに1年間の活動報告をしてもらいます。感謝状を授与するなどし、子どもたちに達成感が得られるようにしています。



実践する上での工夫点や注意点



ユニフォームをそろえる

活動メンバーの子どもたちには、ユニフォームとしておそろいの黄色いTシャツを用意しました。左胸に「ながおじどうかん こどもヘルパー」のロゴを入れ、同じロゴを入れたのぼり幟も作りました。毎回、活動日に着用してもらい、児童館で洗濯をして保管します。子どもたちはユニフォームを着るとスイッチが入るようで、着用した途端にやる気になる様子が見られます。最も出費のある部分ですが、購入して良かったと感じています。2年目は冬用に長袖のユニフォームをそろえました。



地域組織との連携

長尾小学校をはじめ、長尾地区社協や自治会、婦人会、老人クラブ、消防団などから成る「長尾ふれあいのまちづくり協議会」など、多くの地域組織の協力をいただいています。ボランティア活動は地域の支援があるからこそ成り立ちます。地域におけるネットワークづくりも児童館の仕事と捉え、小・中学校の評議員や婦人会、老人クラブ、青少年連絡協議会などの顧問といった役職も積極的に務めています。これにより、地域のルールや困り事などさまざまな情報を入手できるようになりました。他にも、地域の運動会や町民の文化祭などにお手伝いとして参加するなど、地域との連携を大切にしています。また、児童健全育成推進財団が協力する「子どものための児童館とNPOの協働事業（通称：NPOどんどこプロジェクト）」（主催：NPOセンター）に応募し、NPO法人「場とつながりの研究センター」と連携し、助成金を受けられたことも力になりました。



子どもの意思を尊重し、「ボランティア」を押し付けない

本事業は1年を通して毎月2～4回のプログラムがありますが、子どもたちは強制ではなく、好きなものに参加すれば良いことにしています。気の進まないプログラムに参加しても長続きしないと考えているためです。また、「ボランティアとはこういうものだ」との説明や押し付けもしません。遊びの中で交流や支援を行い、大人になって振り返ったときに「あれはボランティアだったんだ」と気づいてもらえれば良いと考えています。子どもの頃、人のために活動し、喜んでもらった経験があれば、大人になってからもボランティア活動に対するハードルは低くなると思っています。

遊びによる
子どもの育成

子どもの
居場所の提供

子どもが意見を
述べる場の提供

配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

地域の健全育成の
環境づくり

ボランティア等の
育成と活動支援

放課後児童クラブの
実施と連携



活動を通して見られる子どもの変化

メンバーとしてよく児童館を訪れる子どもの中から、リーダーシップを発揮する子どもが現れ、メンバーをまとめるようになりました。年下の子どもたちも慕っており、職員も何かあればまずはその子に声をかける流れができ、活動全体がスムーズに回る場面もありました。小学校の校長をはじめ先生方は、「回を重ねるごとに、子どもたちが生き生きとした表情をたくさん見せるようになってきている」との所見を聞き、子どもたちからは、「来年度も続けたい」との声が数多くありました。

また、農業体験をすることで、子どもたちはいつも自分たちが食べているものがどう育てられ、どのように食卓にののかを学ぶことができました。田畑を見慣れているにもかかわらず、もみ殻さえ知らなかった子どもたちが、今では食べ物に対する感謝の気持ちをもつようになりました。



「子どもヘルパー」に参加した感想

※一部抜粋

マッサージが気持ちいいと言ってくれてうれしかった

『たたく』『もむ』以外の8つのマッサージを知って、お母さんやお父さんにもやってあげようと思った

募金活動は短い時間だったけど、たくさんの募金が集まってよかった

とんどで、しめ縄や習字を焼いて、その火で焼いた餅やみかんがおいしかったし楽しかった

クリスマスコンサートはたくさんの方が来てくれてうれしかった

消防訓練をしてすごく役立つなと思った

夏まつりの準備でたくさん意見が出せてよかった

など



活動がもたらす多様な効果

本事業は開始してまだ2年目ですが、地域活動を推進している方々の間で「子どもと交流するなら子どもヘルパーがいいよ」との口コミが広がり、徐々に交流の輪が広がっています。

一方で、神戸市では、特に学校関係者の中に「児童館＝放課後児童クラブ事業を行う場所」と認識している方が多くいます。実際、児童館を訪れる中学生が、学校の先生に「中学生になってもまだ児童館に行くのか」と言われたことがあるそうです。児童館では、そうした認識を変える手段の一つとして、中学生になっても継続したいと思える活動にしていきたいと考えています。すでに「中学生になっても続けたい」という継続者が出てきて、心強い限りです。今後も、子どもヘルパーの成長とともに、子どもが児童館とつながりを持ち続け、将来的には児童館が中高生の活動の場にもなるよう努力したいと考えています。



活動を通して得た「気づき」



地域の方々との交流の深さ

地域には、「子どもは地域で育てなければならない」との思いを持つ方がたくさんいます。しめ縄づくりやとんど（小正月の火祭り）は、そうした地域の方々率が率先して子どもに教えてくださっています。また、農業体験ができたことは、農村地域ならではのことです。他館での事業に比べても、地域の方々との交流が非常に深いものになっており、地域によって趣が大きく変わることに驚いています。



子どもたちの新たな体験を増やす

本事業で路線バスに乗ることがありましたが、子どもたちにとって初めての乗車と知りました。普段の交通手段が自転車か自家用車で、バスに乗ったことがなかったのです。また、農業体験をして、子どもたちが普段食べている野菜がどのように育ち、どのように収穫されているかを知らないことも再認識しました。子どもたちにとって新たな体験の積み重ねになっていることをうれしく思います。

遊びによる
子どもの育成

子どもの
居場所の提供

子どもが意見を
述べる場の提供

配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

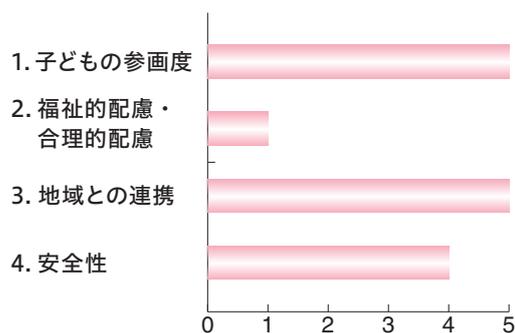
地域の健全育成の
環境づくり

ボランティア等の
育成と活動支援

放課後児童クラブの
実施と連携



職員による自己評価



1. 子どもの参画度…5

子どもが多様な活動に自主的に参加し、地域の方々と交流する楽しさを感じることができていると思います。

2. 福祉的配慮・合理的配慮…1

合理的配慮はまだ十分ではないと思います。また、本活動の中で虐待や貧困は見えにくいと感じています。

3. 地域との連携…5

本活動は、地域の支援があるからこそ成り立つものです。普段から細やかな情報交換を行い、児童館が協力できることは積極的に行っています。

4. 安全性…4

万一に備え各種保険には加入しています。

